

## 「食料の供給に関する特別世論調査」の概要

平成 26 年 2 月 20 日  
内閣府政府広報室

調査概要 調査対象 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人  
有効回収数(率) 1,781 人 (59.4%)  
調査時期 平成 26 年 1 月 9 日～1 月 19 日  
調査方法 調査員による個別面接聴取

調査目的 食料の供給に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。

調査項目

- 1 カロリーベースの食料自給率に対する受け止め
- 2 生産額ベースの食料自給率に対する受け止め
- 3 食料の生産・供給の在り方についての受け止め
- 4 将来の我が国の食料供給についての受け止め
- 5 食料の供給に対する不安要因
- 6 食料自給力向上の必要性に対する受け止め
- 7 食料自給力向上のための具体的な取組内容

<お願い>

本資料の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを  
下記宛にご送付ください。

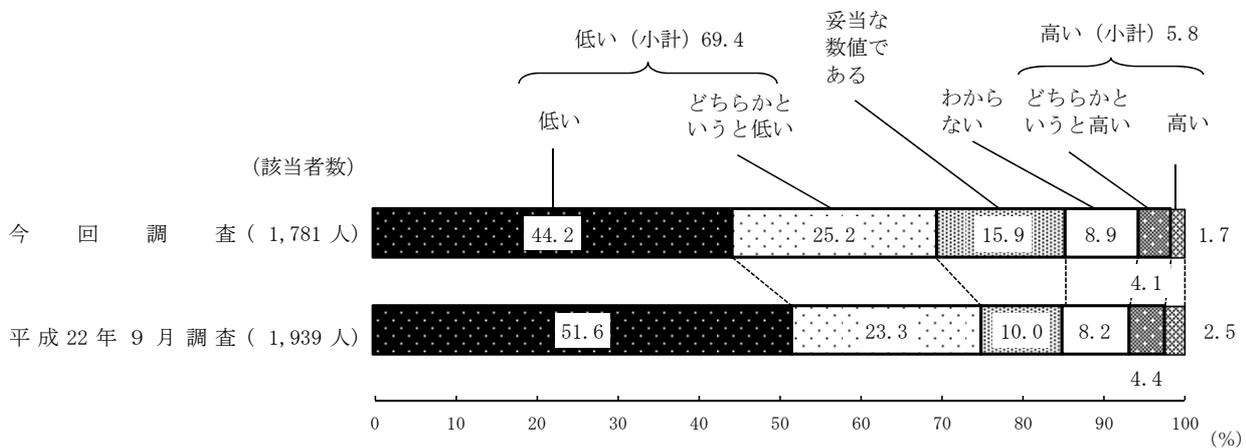
内閣府大臣官房政府広報室  
世論調査担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1  
電話 03(3581)0070  
FAX 03(3580)1186

# 1 現在の食料自給率に対する認識

## (1) カロリーベースの食料自給率に対する受け止め

	平成 22 年 9 月	→	平成 26 年 1 月
・低い (小計)	74.9%		69.4% (減)
・低い	51.6%		44.2% (減)
・どちらかという低い	23.3%		25.2%
・妥当な数値である	10.0%		15.9% (増)
・高い (小計)	6.9%		5.8%
・どちらかという高い	4.4%		4.1%
・高い	2.5%		1.7%



(注) 平成22年9月調査では、「我が国は外国からいろいろな食料品を輸入しています。その結果、我が国の「食料自給率」は、現在現在カロリーベースで40%となっていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。この中から1つだけお答えください。」と聞いている。

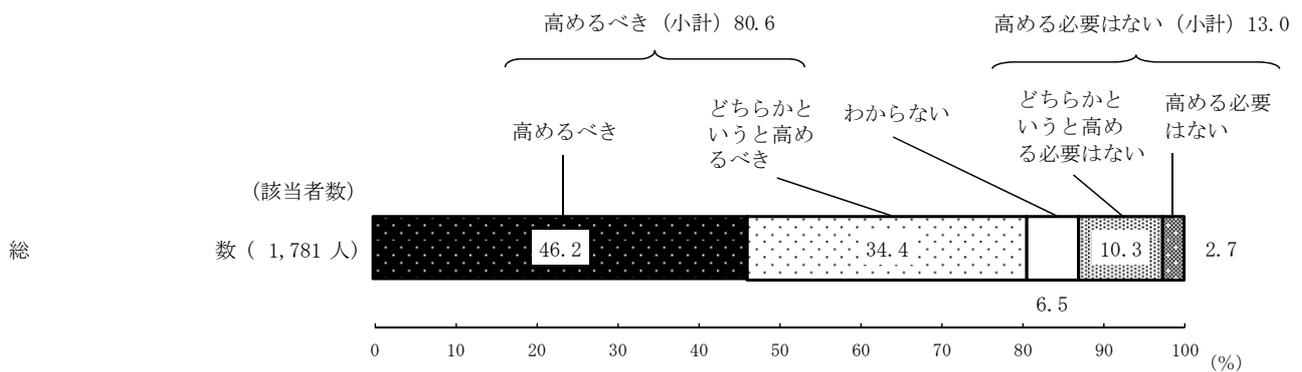
### [参考] 現在の食料自給率に関する意識

	該 当 者 数	低			妥 当 な 数 値 で あ る	高			わ か ら な い
		(小計) い	低 い	ど ち ら か と い う と 低 い		(小計) い	ど ち ら か と い う と 高 い	高 い	
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
今回調査	1,781	69.4	44.2	25.2	15.9	5.8	4.1	1.7	8.9
平成22年9月調査	1,939	74.9	51.6	23.3	10.0	6.9	4.4	2.5	8.2
平成20年9月調査	3,144	79.2	57.6	21.5	8.3	7.3	4.9	2.4	5.2
平成18年11月調査	1,727	70.1	47.0	23.1	11.8	5.6	3.6	2.0	12.6
平成12年7月調査	3,570	52.8	32.9	19.9	19.8	10.8	6.9	3.9	16.6

(2) 生産額ベースの食料自給率に対する受け止め

平成 26 年 1 月

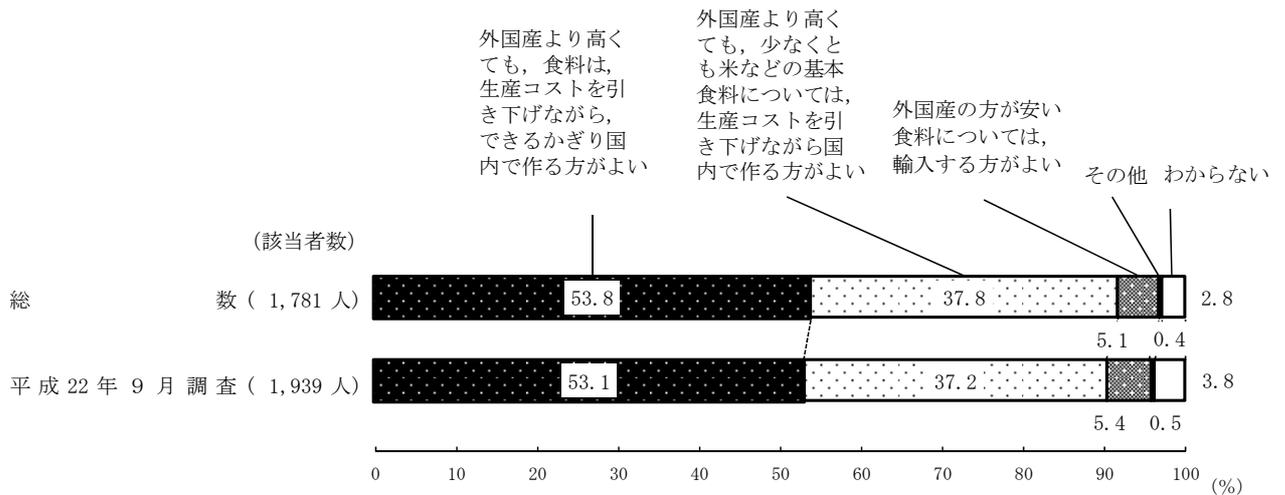
・ 高めるべき (小計)	80.6%
・ 高めるべき	46.2%
・ どちらかというと高めるべき	34.4%
・ 高める必要はない (小計)	13.0%
・ どちらかというと高める必要はない	10.3%
・ 高める必要はない	2.7%



## 2 食料の生産・供給の在り方に関する意識

### (1) 食料の生産・供給の在り方についての受け止め

	平成 22 年 9 月		平成 26 年 1 月
・外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら、できるかぎり国内で作る方がよい	53.1%	→	53.8%
・外国産より高くても、少なくとも米などの基本食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい	37.2%	→	37.8%
・外国産の方が安い食料については、輸入する方がよい	5.4%	→	5.1%



### [参考] 食料の生産・供給のあり方に対する意識

	該 当 者 数	で な は 外 作 が ら 生 産 方 が よ い (注2)	が き つ く 外 国 産 よ り 高 く も 、 少 な く も 米 な ど の 主 食 と な る 食 料 に つ いて は 、 生 産 コ ス ト を 引 き 下 げ な が ら 国 内 で 作 る 方 が よ い (注3)	い 外 国 産 の 方 が 安 い 食 料 に つ いて は 、 輸 入 す る 方 が よ い	そ の 他	わ か ら な い
	人	%	%	%	%	%
今 回 調 査	1,781	53.8	37.8	5.1	0.4	2.8
平 成 22 年 9 月 調 査	1,939	53.1	37.2	5.4	0.5	3.8
平 成 20 年 9 月 調 査	3,144	51.5	42.4	3.1	0.8	2.2
平 成 18 年 11 月 調 査	1,727	42.3	44.5	7.8	0.6	4.7
平 成 12 年 7 月 調 査	3,570	43.6	40.6	10.5	0.6	4.6
平 成 8 年 9 月 調 査	3,567	45.9	37.5	10.8	0.3	5.4
平 成 5 年 11 月 調 査	2,219	32.7	44.7	17.4	0.5	4.7
平 成 2 年 10 月 調 査	2,292	32.7	40.5	17.0	0.3	9.5
昭 和 62 年 9 月 調 査	2,323	31.9	39.3	19.9	0.2	8.7

(注1) 平成18年11月調査までは、「あなたは、我が国の食料の生産・供給のあり方について、どのようにお考えですか。この中からあなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。」と聞いている。

(注2) 平成5年11月調査までは、「外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい」となっている。

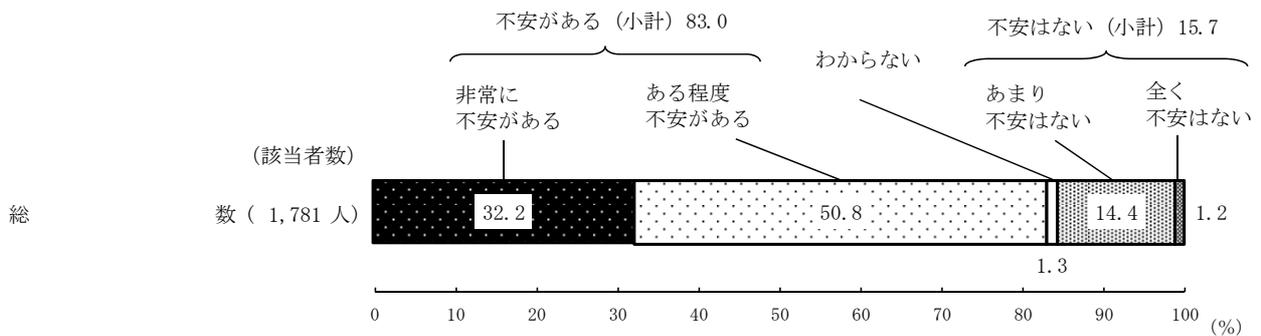
(注3) 平成18年11月調査までは、「外国産より高くても、少なくとも米などの主食となる食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい」となっている。

### 3 我が国の将来の食料供給について

#### (1) 将来の我が国の食料供給についての受け止め

平成 26 年 1 月

- ・ 不安がある (小計) 83.0%
  - ・ 非常に不安がある 32.2%
  - ・ ある程度不安がある 50.8%
- ・ 不安はない (小計) 15.7%
  - ・ あまり不安はない 14.4%
  - ・ 全く不安はない 1.2%



#### [参考] 将来の食料輸入 (供給) に対する意識

	該 当 者 数	不 安 が あ る (小 計)			不 安 は な い (小 計)			わ か ら な い
		非 常 に 不 安 が あ る (注 3)	あ る 程 度 不 安 が あ る (注 4)	あ ま り 不 安 は な い	全 く 不 安 は な い			
平成 22 年 9 月 調 査	1,939	85.9	38.2	47.7	11.1	9.7	1.4	3.0
平成 20 年 9 月 調 査	3,144	93.4	56.5	37.0	5.7	5.3	0.4	0.9
平成 18 年 11 月 調 査	1,727	76.7	28.7	48.0	18.4	16.3	2.1	4.9
平成 12 年 7 月 調 査	3,570	78.4	26.6	51.8	18.5	16.6	1.9	3.1
平成 8 年 9 月 調 査	3,567	70.5	17.3	53.2	26.2	23.1	3.1	3.3
平成 5 年 11 月 調 査	2,219	71.1	17.1	53.9	27.1	23.1	4.0	1.8
平成 2 年 10 月 調 査	2,292	62.8	12.7	50.1	32.6	27.7	4.9	4.6

(注 1) 平成20年9月調査、平成22年9月調査では、「あなたは、我が国の将来の食料輸入についてどのようにお考えでしょうか。この中から1つだけお答えください。」と聞いている。

(注 2) 平成18年11月調査までは、「あなたは、我が国の食料供給についてどのようにお考えでしょうか。この中から1つ選んでください。」と聞いている。

(注 3) 平成2年10月調査では、「非常に不安を持っている」となっている。

(注 4) 平成2年10月調査では、「ある程度不安を持っている」となっている。

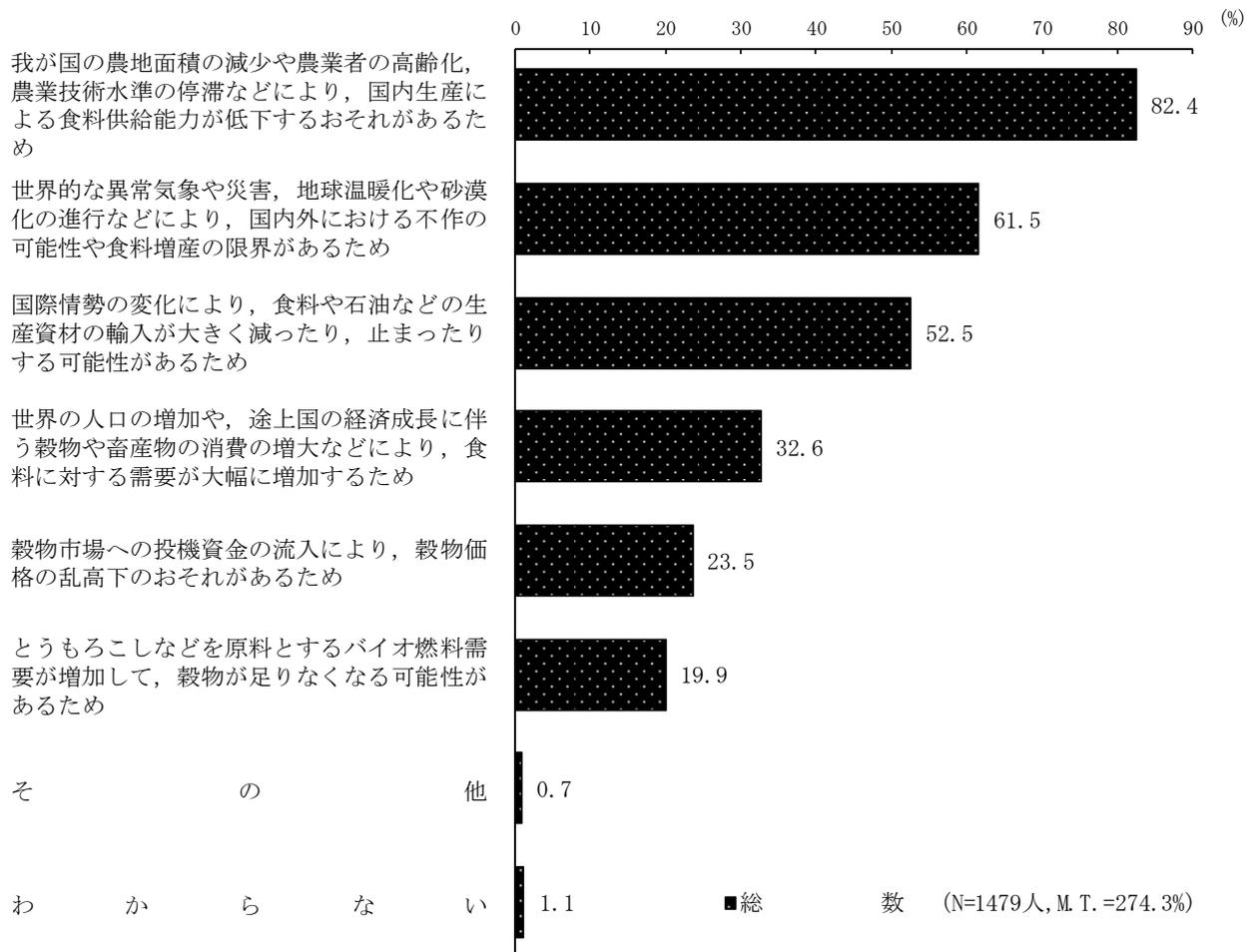
(「非常に不安がある」, 「ある程度不安がある」と答えた者 (1,479 人) に)

(ア) 食料の供給に対する不安要因 (複数回答, 上位 4 項目)

平成 26 年 1 月

- ・我が国の農地面積の減少や農業者の高齢化, 農業技術水準の停滞などにより, 国内生産による食料供給能力が低下するおそれがあるため 82.4%
- ・世界的な異常気象や災害, 地球温暖化や砂漠化の進行などにより, 国内外における不作の可能性や食料増産の限界があるため 61.5%
- ・国際情勢の変化により, 食料や石油などの生産資材の輸入が大きく減ったり, 止まったりする可能性があるため 52.5%
- ・世界の人口の増加や, 途上国の経済成長に伴う穀物や畜産物の消費の増大などにより, 食料に対する需要が大幅に増加するため 32.6%

(「非常に不安がある」, 「ある程度不安がある」と答えた者に, 複数回答)



〔参考1〕 将来の食料輸入（供給）に対する不安の理由

（「非常に不安がある」または「ある程度不安がある」と答えた者に、複数回答）

	該 当 者 数	異 常 気 象 や 災 害 に よ る 海 外 の 不 作 の 可 能 性 が あ る た め	長 期 的 に 見 て、 砂 漠 化 の 進 行 な ど に よ り、 地 球 環 境 問 題 の 深 刻 化 や 限 界 が あ る た め	生 産 資 源 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り、 止 ま つ た り す る 可 能 性 が あ る た め	国 際 情 勢 の 変 化 に よ り、 食 料 や 石 油 等 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り、 止 ま つ た り す る 可 能 性 が あ る た め	世 界 の 人 口 が 急 激 に 増 加 す る な ど に よ り、 食 料 に 対 す る 需 要 が 大 幅 に 増 加 す る た め	途 上 国 の 経 済 成 長 に 伴 い、 大 量 の 穀 物 を 需 要 す る 畜 産 物 の 消 費 が 増 え、 穀 物 に 対 す る 需 要 が 増 加 す る た め	穀 物 市 場 へ の 投 機 資 金 の 流 入 に よ り、 穀 物 価 格 の 乱 高 下 の 恐 れ が あ る た め	可 能 性 が あ る た め 、 穀 物 が 足 り な く な る こ し な ど を 原 料 と す る バ イ オ 燃 料 需 要 が 増 加 す る た め	そ の 他	わ か ら な い	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成22年9月調査	1,665	59.2	49.8	48.0	38.9	36.5	27.6	26.2	2.2	2.8	291.2	
平成20年9月調査	2,937	49.6	46.6	55.8	36.9	※	※	35.8	3.1	1.6	229.5	
平成18年11月調査	1,325	56.2	56.5	61.6	29.4	※	※	※	2.2	1.2	207.2	
平成12年7月調査	2,799	46.0	48.6	43.7	31.1	※	※	※	1.8	2.9	174.1	
平成8年9月調査	2,515	55.0	46.1	38.4	36.9	※	※	※	3.8	1.0	181.1	

（注1）平成20年9月調査、平成22年9月調査では、「あなたが将来の食料輸入について不安があるとお考えになるのは、どのような理由からでしょうか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

（注2）平成18年11月調査までは、「あなたが将来の食料供給について不安があるとお考えになるのは、どのような理由からでしょうか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

※：調査をしていない項目

〔参考2〕 食料供給に不安がある理由

（「非常に不安がある」、「ある程度不安がある」と答えた者に、複数回答）

	該 当 者 数	異 常 気 象 や 災 害 に よ る 内 外 の 不 作 の 可 能 性 が あ る た め	長 期 的 に 見 て、 砂 漠 化 の 進 行 な ど に よ り、 地 球 環 境 問 題 の 深 刻 化 や 限 界 が あ る た め	生 産 資 源 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り、 止 ま つ た り す る 可 能 性 が あ る た め	国 際 情 勢 の 変 化 に よ り、 食 料 や 石 油 等 の 輸 入 が 大 き く 減 つ た り、 止 ま つ た り す る 可 能 性 が あ る た め	世 界 の 人 口 が 急 激 に 増 加 す る な ど に よ り、 食 料 に 対 す る 需 要 が 大 幅 に 増 加 す る た め	途 上 国 の 経 済 成 長 に 伴 い、 大 量 の 穀 物 を 需 要 す る 畜 産 物 の 消 費 が 増 え、 穀 物 に 対 す る 需 要 が 増 加 す る た め	穀 物 市 場 へ の 投 機 資 金 の 流 入 に よ り、 穀 物 価 格 の 乱 高 下 の 恐 れ が あ る た め	可 能 性 が あ る た め 、 穀 物 が 足 り な く な る こ し な ど を 原 料 と す る バ イ オ 燃 料 需 要 が 増 加 す る た め	そ の 他	わ か ら な い	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成5年11月調査	1,577	66.3	39.7	35.3	33.7	22.4	2.7	0.8	201.0			
平成2年10月調査	1,440	41.1	40.7	55.2	33.5	24.9	2.0	1.2	198.7			

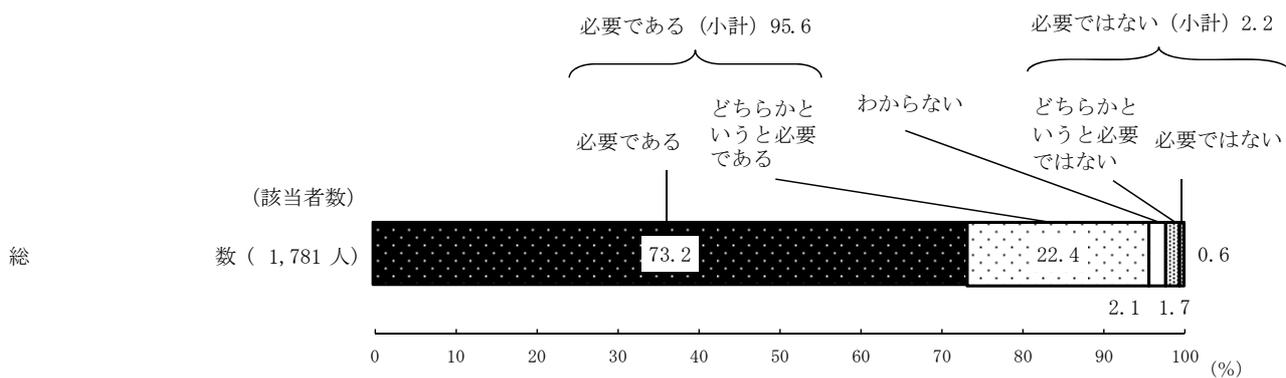
（注）「不安を持っているのは、どのような理由からですか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

#### 4 食料自給力に関する意識

##### (1) 食料自給力向上の必要性に対する受け止め

平成 26 年 1 月

・必要である (小計)	95.6%
・必要である	73.2%
・どちらかというと必要である	22.4%
・必要ではない (小計)	2.2%
・どちらかというと必要ではない	1.7%
・必要ではない	0.6%

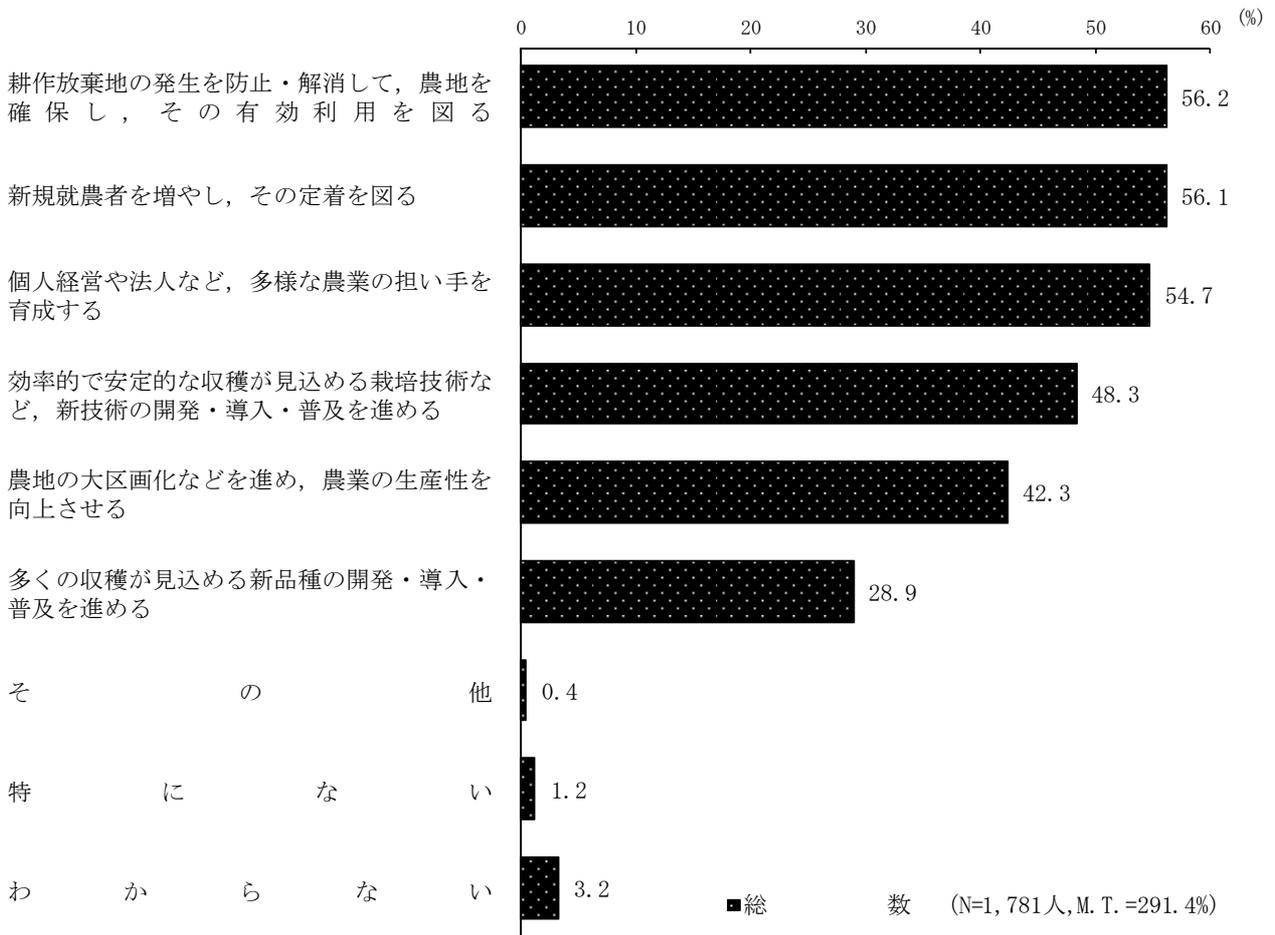


(2) 食料自給力向上のための具体的な取組内容（複数回答，上位4項目）

平成 26 年 1 月

- ・耕作放棄地の発生を防止・解消して，農地を確保し，その有効利用を図る 56.2%
- ・新規就農者を増やし，その定着を図る 56.1%
- ・個人経営や法人など，多様な農業の担い手を育成する 54.7%
- ・効率的で安定的な収穫が見込める栽培技術など，新技術の開発・導入・普及を進める 48.3%

(複数回答)



## 食料の供給に関する特別世論調査

調査時期：平成26年1月9日から平成26年1月19日  
調査対象：全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人  
有効回収数(率)：1,781人(59.4%)

話は変わりますが、次に時事問題として、「食料の供給」に関してお聞きします。

### 1. 現在の食料自給率に対する認識

Q1【回答票1】我が国は外国からいろいろな食料品を輸入しています。その結果、我が国の「食料自給率」は、現在カロリーベースで39%となっていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。この中から1つだけお答えください。

- (44.2) (ア) 低い
- (25.2) (イ) どちらかという低い
- (15.9) (ウ) <sup>だとう</sup> 妥当な数値である
- (4.1) (エ) どちらかという高い
- (1.7) (オ) 高い
- (8.9) わからない

【資料1】を提示して、調査対象者によく読んでもらってから、以下の質問を行う。）

#### 【資料1】

「食料自給率」には、生命・健康の維持に不可欠なカロリーに着目した「カロリーベース」のほかに、国内農業生産の経済的価値を表す金額に着目した「生産額ベース」があります。「カロリーベース」は、米や麦、大豆など、比較的高カロリーの品目の影響が数値に強く反映されます。一方、「生産額ベース」は、カロリーベースと比べると、野菜や果物など比較的高価であるがカロリーの低い品目や、畜産物のように飼料を輸入に依存している品目の影響が数値に強く反映されます。

Q2【回答票2】我が国の「食料自給率」は、現在、生産額ベースで68%となっています。あなたは、我が国の今後の生産額ベースでの食料自給率についてどのように考えますか。この中から1つだけお答えください。

- (46.2) (ア) 高めるべき
- (34.4) (イ) どちらかという高めるべき
- (10.3) (ウ) どちらかという高める必要はない
- (2.7) (エ) 高める必要はない
- (6.5) わからない

## 2. 食料の生産・供給の在り方に関する意識

Q 3【回答票3】あなたは、我が国の食料の生産・供給のあり方について、原則としてどのようにお考えですか。この中からあなたのお考えに近いものを1つだけお答えください。

- (53.8) (ア) 外国産より高くても、食料は、生産コストを引き下げながら、できるかぎり国内で作る方がよい
- (37.8) (イ) 外国産より高くても、少なくとも米などの基本食料については、生産コストを引き下げながら国内で作る方がよい
- ( 5.1) (ウ) 外国産の方が安い食料については、輸入する方がよい
- ( 0.4) その他 ( )
- ( 2.8) わからない

## 3. 我が国の将来の食料供給について

Q 4【回答票4】あなたは、我が国の将来の食料供給についてどのようにお考えでしょうか。この中から1つだけお答えください。

- (32.2) (ア) 非常に不安がある
- (50.8) (イ) ある程度不安がある
- (14.4) (ウ) あまり不安はない
- ( 1.2) (エ) 全く不安はない
- ( 1.3) わからない

(Q 4で「(ア) 非常に不安がある」, 「(イ) ある程度不安がある」と答えた方に)

S Q【回答票5】あなたが将来の食料供給について不安があるとお考えになるのは、どのような理由からでしょうか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(N=1,479)

- (82.4) (ア) 我が国の農地面積の減少や農業者の高齢化、農業技術水準の停滞などにより、国内生産による食料供給能力が低下するおそれがあるため
- (32.6) (イ) 世界の人口の増加や、途上国の経済成長に伴う穀物や畜産物の消費の増大などにより、食料に対する需要が大幅に増加するため
- (19.9) (ウ) とうもろこしなどを原料とするバイオ燃料需要が増加して、穀物が足りなくなる可能性があるため
- (23.5) (エ) 穀物市場への投機資金の流入により、穀物価格の乱高下のおそれがあるため
- (61.5) (オ) 世界的な異常気象や災害、地球温暖化や砂漠化の進行などにより、国内外における不作の可能性や食料増産の限界があるため
- (52.5) (カ) 国際情勢の変化により、食料や石油などの生産資材の輸入が大きく減ったり、止まったりする可能性があるため
- ( 0.7) その他 ( )
- ( 1.1) わからない (M.T.=274.3)

#### 4. 食料自給力に関する意識

(全員の方に)

Q 5 【回答票 6】我が国の国内生産による食料供給能力のことを食料自給力といいます。これを向上させ、緊急時における食料の安定供給を確保するよう取組むことについて、どのようにお考えでしょうか。この中から1つだけお答えください。

- (73.2) (ア) 必要である
- (22.4) (イ) どちらかという必要である
- (1.7) (ウ) どちらかという必要ではない
- (0.6) (エ) 必要ではない
- (2.1) (オ) わからない

---

Q 6 【回答票 7】食料自給力を向上させるため、どのような施策が必要であると考えますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

- (56.2) (ア) 耕作放棄地の発生を防止・解消して、農地を確保し、その有効利用を図る
- (42.3) (イ) 農地の大区画化などを進め、農業の生産性を向上させる
- (56.1) (ウ) 新規就農者を増やし、その定着を図る
- (54.7) (エ) 個人経営や法人など、多様な農業の担い手を育成する
- (28.9) (オ) 多くの収穫が見込める新品種の開発・導入・普及を進める
- (48.3) (カ) 効率的で安定的な収穫が見込める栽培技術など、新技術の開発・導入・普及を進める
- (0.4) その他 ( )
- (1.2) 特になし
- (3.2) わからない (M.T.=291.4)